

水産まつりでドカンとやろう!!

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力

主体性・積極性

自己理解・自らへの自信

1 単元について**(1) 生徒観**

平成 27 年度全国学力・学習状況調査〔生徒質問紙〕と同様の、『総合的な学習の時間』の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか。』という質問に対して、93.3%の生徒が肯定的な回答をしている。一方、『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。』の質問に対する肯定的評価は 78.3%に留まっている。さらに、文部科学省「学校キャリア教育の手引き」を基にしたアンケートを第 1 学年対象に実施したところ、「人間関係形成・社会形成能力」においては 90%を超え、「自己理解・自己管理能力」においては、80%を超えていた。しかし、「分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問したりしていますか」「何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか」という「課題対応能力」においては 70%台、「自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のための方法について考えていますか」（「キャリアプランニング能力」）の質問においては、69%と低い数値であった。

これらの結果から 1 学年の生徒の実態として、「総合的な学習の時間」で学習したことが将来、役に立つと思っているものの、分からないことやもっと知りたいことがある時に、自ら課題を見つけ、進んで資料や情報を収集したり、誰かに質問したりするという「課題対応能力」に課題があることがわかる。また、自分の将来について目標を立て、その実現のための方法について考えることに課題がうかがえる。そのため、この単元を通して、①生徒が自ら気づき考え行動する場を多く設定し、②生徒の主体性を育む活動を通して、③課題発見・解決力の向上を図りたい。

(2) 単元観

本単元は、総合的な学習の時間の目標である「自分の生活と自分が生活している坂地域の『ひと・こと・もの』とのかかわりについて探求することを通して、自らの課題を発見し、他者と協同しながら学び方やものの考え方を身に付けるとともに、計画的に課題を解決し、よりよい生活や自己の生き方を考えることができる」の基礎を培う単元である。

坂町では古くから、海に面している地形を利用したカキの養殖と山が多い地形から米作りではなくモチ（ムラサキ）麦と芋作りが主な産業であった。近年、カキについては環境の変化等によりカキの水揚げ量が減少し、地元の水産業者（カキ打ち場）も減少している。また、モチ（ムラサキ）麦についても生活様式の変化や流通の発展によりモチ麦の栽培をされている農家はない。こういった現状や地域の人々の願いを知り、地域を考えさせる取組にしたい。また、坂町漁業協同組合は毎年 2 月に坂町チャリティー水産まつりを行い、坂町の特産品であるカキを多くの方に知ってもらうことを通して坂町の活性化を図っている。今まではボランティアとして 1 年生が参加をしていたが、今年度は 1 学年全体でその事業へ参加させていただくことにより、課題を発見し、解決する力、多くの方と協働するためのコミュニケーション能力を養い、これらの学習を通して、地域の魅力を再発見し地域への関心が高まることが期待される。

この 1 年次の「地域の産業とその継承に取り組んでいる人々」の学習は、2 年次の「地域の活性化のために取り組んでいる人々」の学習へとつながり、そして 3 年次の「地域の課題

を解決するために取り組んでいる人々」の学習へとつながる。3年間を通して「地域を通して生き方を考える」ことができる系統的・発展的な学習を行うために有効な単元である。

(3) 指導観

指導にあたっては、「みつめる」というテーマのもと、坂町を「みつめる」ことから学習を始めていく。①「生徒自ら気づき考え行動する場」としては、特に坂町の特産品に目を向け学習課題を設定させていく。出てきた特産品やカキとムラサキ（モチ）麦のイメージマップ作りから知っていること、疑問点などに自ら気付かせ、それらを整理し課題をつかませる。調査方法やわかりやすく相手に伝わりやすい発表の仕方、今までの水産まつりから今年度実施する水産まつりではどのようなことができるかを生徒自らの手で気づかせ、考えさせる。

次に②「生徒の主体性を育む活動」としては、つかんだ課題を解決するための解決方法を自ら模索し、実際に現地へ行っての体験活動や聞き取り学習、講師を招聘してのインタビュー学習を実施する。その学習の中には地域の方々や水産海洋センターの方からの聞き取り活動の準備や打合せも含め学習をさせたい。また、坂町特産品フェアへのクッキーの試作・試食とアンケート実施・分析・改善、ムラサキ麦の栽培などの活動を考えている。多くの学校外の方々とののかかわりの中で自分はどのように行動すべきかを考えさせていきたい。

③「課題発見・解決力の向上」として、①②の学習を通して課題発見・解決力を身に付けさせるとともに、それらの学習した力を発揮する場として「坂町チャリティー水産まつり」への坂中テント（団子汁、クッキー販売）の出店、運営、漁協テントの販売補助などの活動を行う。

実際に学習したことを社会の中で試す活動を通して、その活動の中で出会うであろう「未知の課題」に対して、協働して最善解を求めていく力を育てたい。

2 単元目標

- 坂町の特産品について理解を深める学習を行うことで、町を活性化する主体となる意識を高める。
- 水産まつりへ向けて学習し、参画することで、他者と協働して答えのない問題に取り組む意欲を育成する。
- 地域と連携することにより、家庭や地域社会の一員としての自覚を高め、地域の一員として活動できる生徒を育成する。

3 本単元において育成しようとする資質能力とののかかわり

「間違いをおそれず、自分の考えを相手に伝え、前向きに活動に取り組む生徒」（ゴールの生徒の姿）

【スキル】課題発見・解決力

- ア 工夫された課題の提示によって、興味・関心をもち課題を自らのものと捉える。
- イ 相手や目的、意図に応じて手段を選択し、情報を収集する。
- ウ 既習の知識や調査・体験で得たことを整理し、次の課題をみつける。
- エ 調査や体験から得た情報を活用し、思考力・判断力・表現力を育成する。

【意欲・態度】主体性・積極性

- ア 他者と意見交換しながら答えのない問題に取り組む意欲をもつ。
- イ 他者と協働して調査体験活動を通して答えのない課題に取り組む意欲をもつ。
- ウ 学校内外の人とののかかわりやコミュニケーションができる。

【価値観・倫理観】自己理解・自らへの自信

- ア 解決された内容について、相手意識をもって、自分の考えを相手に伝える。
- イ 地域の方へ学習した内容をわかりやすく表現する。
- ウ 自己の将来を考え、夢や希望をもつことができる。

4 単元の評価規準

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに 関すること
・坂町の特産品であるカキ、ムラサキ麦から思いつく課題を設定し、インタビュー活動や講話から情報や知識を収集・選択・活用し、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考え、課題解決を探究する。 【スキル】ア、イ、ウ ・文化祭で相手や目的に応じて、効果的な表現にまとめて説明し、豊かなコミュニケーション力をつけることができる。 ・水産まつりを通して漁協の方とコミュニケーションをとり体験活動を行うことができる。お客さんとの対応の中で、学んだことをわかりやすく説明したり、接客を行うことができる。 【スキル】エ	・他者と協働して、水産まつりでどのような活動が必要かを考えることができる。 【意欲・態度】ア ・水産まつりにいたるまでの活動を通して、自分の適性、可能性に気づき、将来への夢や希望をもつ。 【価値観・倫理観】ウ	・調査活動でどのようにしたら調べることができるか、また、水産まつりにおいて他者と協働して課題解決にあたることができる。 ・漁協の方やお客さんと積極的にコミュニケーションをとることができる。 【意欲・態度】イ、ウ ・調査、体験活動で得た情報を交流する中で、相手と自分の考えの相違点と共通点を理解した上で相手意識を持って伝え、相手の思いを受け止める。 【価値観・倫理観】ア、イ

5 指導と評価の計画（全 34 時間）

時	学習内容	評 価
		資質・能力の評価 (評価方法)
1 2 3	課題の設定 ○「坂町」から思いつくこと、連想したことを基に、課題を発見する。 ○単元の目標と学習の流れを計画する。 ○学習課題を設定する。 ・カキ・ムラサキ麦の疑問を出し合う。	【スキル】課題発見・解決力 ア ・坂町の特産品であるカキ、ムラサキ麦から思いつく課題を設定し、インタビュー活動や講話から情報や知識を収集・選択・活用し、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考え、課題解決を探究する。 ○教科との関連 社会科「身近な地域の調査」 理科「植物の生態と分類」「動物の生活と生物の変遷」 制作物による評価 （学習計画表、ワークシート） 観察による評価 （活動の様子）
4 5 6 7	情報の収集 ○調査を通して課題を追求する。 ・どうやって調べていくか考える。 ・訪問したい場所、講師等へアポイントメントを取る ・地域の人からインタビューをして課題を追求する	【スキル】課題発見・解決力 イ ・坂町の特産品であるカキ、ムラサキ麦から思いつく課題を設定し、インタビュー活動や講話から情報や知識を収集・選択・活用し、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考え、課題解決を探究する。 【意欲・態度】主体性・積極性 イ ・調査活動でどのようにしたら調べることができるか、また、水産まつりにおいて他者と協働して課題解決にあたること ・他者と協働して課題解決にあたること ○教科との関連 国語科「スピーチ」 制作物による評価 （学習計画表、ワークシート） 観察による評価 （活動の様子）
8 9 10 11 12 13 14	整理・分析 まとめ・創造・表現 ○文化祭で他学年の生徒や地域の方に調査を通してわかったこと、考えたことなどをわかりやすい発表原稿・展示作品をつくり、発表する。 ・どのようなまとめ方が相手に伝わりやすいか考える ・インタビューした内容をグループ間で交流する ・相手に伝わりやすい展示作品、発表原稿を作る ・文化祭で発表する。	【スキル】課題発見・解決力 エ ・文化祭で相手や目的に応じて、効果的な表現にまとめて説明し、豊かなコミュニケーション力をつけることができる。 【価値観・倫理観】自己理解・自らへの自信 イ ・調査、体験活動で得た情報を交流する中で、相手と自分の考えの相違点と共通点を理解した上で相手意識を持って伝え、相手の思いを受け止める。 ○教科との関連 国語科「説明文を書く」「レポート」 制作物による評価 （学習計画表、ワークシート、展示作品） 観察による評価 （活動の様子、発表の様子）

15 16	課題の設定 ○水産まつりに向けて新たな課題を設定する。 ・水産まつりでどのようなことができるかを考える	【スキル】課題発見・解決力 ア ・坂町の特産品であるカキ、ムラサキ麦から思いつく課題を設定し、インタビュー活動や講話から情報や知識を収集・選択・活用し、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考え、課題解決を探究する。 【意欲・態度】主体性・積極性 ア ・他者と協働して、水産まつりでどのような活動が必要かを考えることができる。 制作物による評価 (学習計画表, ワークシート) 観察による評価 (活動の様子)
17 18	情報の収集 ○水産まつりでどのような活動が必要かを考え、決定する。 ・販売する商品の決定 ・販売補助をするテントの飾りつけ等 ・学習内容の展示、説明 ・会場整理 ○自分の担当する係を決定する。	【意欲・態度】主体性・積極性 ア ・他者と協働して、水産まつりでどのような活動が必要かを考えることができる。 【価値観・倫理観】自己理解・自らへの自信 ア ・調査、体験活動で得た情報を交流する中で、相手と自分の考えの相違点と共通点を理解した上で相手意識を持って伝え、相手の思いを受け止める。 ○教科との関連 数学科「数と式」 美術科「気持ちを伝えるデザイン」 制作物による評価 (学習計画表, ワークシート) 観察による評価 (活動の様子)
19 20 21 22 23 24 25 26 27	整理・分析 まとめ・創造・表現 ○調査・体験活動を通して課題を追求する。 ・販売する商品の決定、準備、試食、アンケート収集、分析 ・宣伝、広告、飾りつけの準備 ・学習内容の展示準備、説明準備 ・坂町特産品フェアでの実習 ・ムラサキ麦の栽培（畑の見学・実習、畑づくり、植え付け） ・カキ打ち体験	【スキル】課題発見・解決力 イ ・坂町の特産品であるカキ、ムラサキ麦から思いつく課題を設定し、インタビュー活動や講話から情報や知識を収集・選択・活用し、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考え、課題解決を探究する。 【意欲・態度】主体性・積極性 イ ・漁協の方やお客さんと積極的にコミュニケーションをとることができる。 ○教科との関連 家庭科「食生活と自立」 技術科「生物育成に関する技術」 制作物による評価 (学習計画表, ワークシート) 観察による評価 (活動の様子)
28 29 30 31	実行 ○水産まつりへ参加する。 ・役割分担に従って作業をすすめる ・当日出てくる課題に対して協働して取り組む	【意欲・態度】主体性・積極性 ウ ・漁協の方やお客さんと積極的にコミュニケーションをとることができる。 【スキル】課題発見・解決力 エ ・水産まつりを通して漁協の方とコミュニケーションをとり体験活動を行うことができる。お客さんとの対応の中で、学んだことをわかりやすく説明したり、接客を行うことができる。 制作物による評価 (学習計画表) 観察による評価 (活動の様子)
32 33 34	ふりかえり ○今までの活動の足跡を確認し、自分の活動を振り返る ○関係先へお礼状を作成する。 ○キャリアノートに記入する。	【価値観・倫理観】自己理解・自らへの自信 ウ ・水産まつりにいたるまでの活動を通して、自分の適性、可能性に気づき、将来への夢や希望をもつ。 【スキル】課題発見・解決力 エ ・水産まつりを通して漁協の方とコミュニケーションをとり体験活動を行うことができる。お客さんとの対応の中で、学んだことをわかりやすく説明したり、接客を行うことができる。 ○教科との関連 国語科「説明文を書く」「レポート」 制作物による評価 (学習計画表, キャリアノート, 礼状) 観察による評価 (活動の様子)

(1) 本時の目標

(2) 本時の展開 (本時 17/34)

7 準備物

8 板書計画

めあて

水産まつりで必要な活動を出し合うことができる

流れ

- 1 個人で考える(付箋)
- 2 グループではりあう
グルーピングする
- 3 グループごとに発表
- 4 まとめ

様々な立場
 ・お客さん
 ・漁協関係者
 ・坂中学校生